開発途上国の研究者に学術情報の提供を支援するイニシアチブ HINARI とオープンアクセス

城山　泰彦　(KIYAMA, Yasuhiko)
順天堂大学図書館

Ⅰ．【はじめに】

開発途上国の研究者に医学情報を提供するイニシアチブ（構想）として，HINARI (Health InterNetwork Access to Research Initiative)がある。世界保健機関や大手学術出版団体を主体として，2002 年に開始された。雑誌や図書を現物寄贈する従来型の支援に代わり，学術雑誌の電子化や Open Access Journal（以下 OA）を利用して展開している。HINARI を取巻く学術出版団体や図書館などの環境は良好である。2008 年 6 月時点で，141 の出版社や学協会が 5,377 誌を提供し，参加対象 113 か国のおよそ 2,500 の非営利研究機関が参加しており，提供と参加ともに規模を拡大している。提供誌は出版側の意向によるが，はたして開発途上国研究者が求める,有用な質の高い学術情報が提供されているのであろうか。

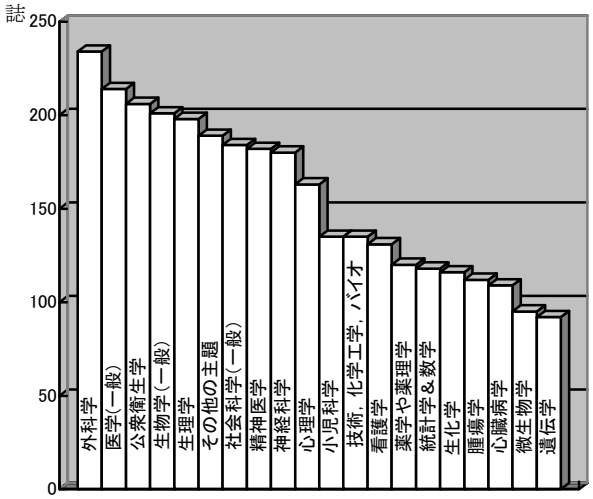
Ⅱ．【調査方法・調査項目】

本研究では，HINARI が提供している 4,571 誌（2008 年 2 月 2 日時点）について，データベース収載状況（MEDLINE, Journal Citation Reports, SCOPUS)，主題分野，査読誌，OA か否か，発行国，発行形態，テキスト言語などを調査し，それらの傾向をさぐった。

Ⅲ．【調査結果】

HINARI 提供誌は，開始から 6 年で 5.6 倍に増加しており，評価の高いトップジャーナルから，開発途上国で刊行されたデータベース未収録の地域的な雑誌まで収録されていた。主題は医学にとどまらず，生物学や心理学の周辺分野や社会学系にも広がっていた。同様のイニシアチブは医学のほかに，農学（AGORA）や環境科学（OARE）分野でも行われている。

開発途上国の研究者にとっては，これらのイニシアチブにより，学術文献入手の可能性が拡がっていると考えられる。OA は学術情報の入手機会均等化に貢献している一方で，安くない投稿料の負担があるため（一部に開発途上国向けの投稿料減免がある),学術情報の発信には障壁が存在しているといえる。現時点で，HINARI などのイニシアチブで提供されている雑誌は，情報利用のコストが免除されるうえに，投稿料が不要で情報発信の障壁が低い。開発途上国の研究者が情報利用と情報発信の両方に関われる可能性が拡がるため，その果たす役割は大きいと考えられる。



提供タイトルのCategory上位20分野